

本校の「T-time」(総合的な探究の時間)では、グローバルとローカルの視点を併せ持ち課題解決に挑戦する力のある「グローバル」な人材の育成を目指して、1年次で SDGs課題学習で世界の問題について視野を広げ、2～3年次で地域における課題研究を行っています。その取り組みの総括として、28 回生(令和3年度入学生)にアンケートを行い、分析しました。

## ①令和3～5年度総合的な探究の時間〔T-time〕について(28 回生)アンケート結果・分析

(2023 年 7 月実施、28 回生223名/268名 回答)

※R4 は 27 回生(令和 2 年度入学生)の数値

5：非常に当てはまる 4：まあまあ当てはまる 3：どちらでもない 2：あまり当てはまらない 1：全く当てはまらない			肯定評価(5・4)の割合 (%)		
分類	番号	項目	R4 (総・推)	R5 (総・推)	比較
課学	Q1	1～2年の「SDGs課題学習」(異常気象・環境、再生可能エネルギー、安全な水とトイレなどについて)は志望理由書の記入や面接において役立つと思いますか	31.4	69.7	38.3 ↑↑
	Q2	2～3年の「地域の問題についての課題研究」は、志望理由書の記入や面接において役立つと思いますか	50.7	90.3	39.6 ↑↑
課研	Q3	2～3年の「地域の問題についての課題研究」のテーマは、自分の進路希望の分野と関連付けて決めるべきだと思いますか	60	74.8	14.8 ↑
	Q4	外部講師(富谷市長、市役所職員、大学教授など)による講演会は、課題研究を進める上で役立つと思いますか	57.2	83.9	26.7 ↑
	Q5	研修ツアー(地域の問題に取り組んでいる各団体や企業への訪問)は、課題研究を進める上で必要だと思いますか	55.7	77.4	21.7 ↑
T全	Q6	T-timeの時間で、「人前でプレゼンする能力」が身についたと思いますか	73.6	90.3	16.7 ↑
	Q7	T-timeの時間で、「必要な情報を収集し分析する力」が身についたと思いますか	82.2	98.1	15.9 ↑
	Q8	T-timeの時間で、「ペアやグループの人と一緒に活動する力」が身についたと思いますか	86.4	94.8	8.4 ↑
	Q9	T-timeの時間は、全体として、自分の進路希望の達成に役立つ(関連している)と思いますか	62.1	83.8	21.7 ↑
	Q10	先輩へのアドバイスとして、T-timeの時間は積極的に取り組むべき時間であると伝えたいと思いますか	79.3	91.7	12.4 ↑

### 〈分析〉

Q1、2、9 は肯定評価が昨年度(27 回生)に比べ顕著に増加しています。T-time の取組が進路実現につながっていることを実感できたと考えられます。また、Q4、5も肯定評価が増加しており、地域(市、大学等)との連携が課題研究を進める上で有効に作用していると言えます。Q6～8は9割程度の生徒が肯定評価をしています。探究の過程で、言語により分析し表現する力や、他者と協働して問題を解決しようとする力などが向上したことを実感しています。

## ②令和4～5年度課題研究について(28 回生)アンケート結果・分析 ※数値は回答数及び生徒数に対する割合

(2023/04/27実施、28 回生244名/268名 回答)

Q1.探究学習(課題研究)を通して、あなたが身につけた力、身につけたことは何ですか、選んでください(複数回答可)。他にもある人は、その他に自由に書いてください。

1	必要なデータを的確に収集する力	139 (57%)
2	協働して物事をまとめる力	137 (56%)
3	考えを出し合ってもとの考えを深める力	126 (52%)
4	自分の取り組んだ課題に対する知識	117 (48%)
5	課題を見つけ研究テーマを設定する力	97 (40%)
6	まち(地域)の課題を見つける力	94 (39%)
7	複数のデータを的確に分析する力	95 (39%)
8	集めた情報から、自分自身の考えをまとめて表現する力	86 (35%)
9	自分(の取り組み)が社会にどう貢献できるかを考える力	71 (29%)
10	自ら主体的に学ぶ力	79 (32%)
11	自分(の取り組み)が社会にどう貢献できるかを考える力	71 (29%)
12	自分(の取り組み)が社会にどう貢献できるかを考える力	71 (29%)
13	課題を実生活と結びつけて考える力	62 (25%)
14	まち(地域)への愛着	40 (16%)
15	自分がまち(地域)に果たすべき役割を把握する力	36 (15%)
16	その他	1 (0%)

### 〈分析〉

データ収集力、協働力、考えを出し合ってもとの考えを深める力、課題に対する知識が順に多くなっています。このことから、研究において既存の知識を生かして協働しながらデータをまとめ上げる力を養えたと考えられます。また、まち(地域)の課題を見つける力も多くの生徒が身についたと感じており、仮想市役所の部署に所属させるという仕立てと、地域行政との連携とによって、地域の一員としての自覚が養われたと言えます。

Q2.探究学習(課題研究)で身につけた力を今後どう生かしたいですか(複数回答可)。他にもある人は、その他に回答を書いてください。

1	総合型選抜・推薦・履歴書の志望理由書作成	125(51%)
2	総合型選抜・学校推薦型選抜・就職の面接	109(45%)
3	社会に出てからの人との関わり	99(41%)
4	地域への貢献	56(23%)
5	地域の方との関わり	48(20%)
6	高校の授業での取り組み	47(19%)
7	社会に出てからの書類作り	44(18%)
8	大学・専門学校に進学後の学び	45(18%)
9	クラスや部活での友人との関わり	42(17%)
10	進学する学校選び	29(12%)
11	ボランティア活動	29(12%)
12	職業選び	21(9%)
13	その他	1(0%)

〈分析〉

大学の総合型選抜・学校推薦型選抜に関する項目について、約50%の生徒が選択しており、多くの生徒が課題研究での学びを総合型選抜・学校推薦型選抜で生かそうと考えていました。実際、進学に向けて両選抜に出願した生徒数は全体の60%を超えました。

また、次点で「社会に出てからの人との関わり」「地域への貢献」が次いで多く、生徒自身が地域の一員としての責任を自覚するとともに、社会における自己への気づき、社会貢献の視座を養えたと言えます。

Q3.探究活動の中で、自分が特に頑張ったことは何か、選んでください(3つまで回答可)。他にもある人は、その他に回答を自由に書いてください。

1	友人とのグループワーク(協議)	159(65%)
2	情報の収集・分析	147(60%)
3	発表(プレゼン)の仕方	105(43%)
4	スライドでの情報発信の工夫	97(40%)
5	テーマ設定(課題の発見)	63(26%)
6	文献調査	57(23%)
7	考察と解決策の提示	52(21%)
8	市役所職員とのオンラインセッション	23(9%)
9	フィールドワーク	23(9%)
10	その他	3(1%)

〈分析〉

協働学習における項目に多くの生徒が回答しました。

Q1、Q2と照合すると、新学習指導要領の趣旨の実現に向けて求められている、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を推進できたと言えます。それぞれの生徒が、自ら主体的に学び、見方・考え方を働かせながら自己の在り方生き方を考えていました。探究学習を通して、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成できたと言えます。

Q4.探究活動(課題研究)をやって、よかったことは何ですか。自由に書いてください。(一部抜粋)

- ・グループのメンバーと意見を出し合い、最終的にはひとつの解決策を決め、それに向かって頑張りあえたこと。
- ・課題解決に向けて、現実的な考えを多様な面から考えることができたこと。今後の大学生活や社会に出て役立つつと思った。
- ・問題解決能力が高まり、どうすれば聴衆に納得してもらえるかを考えることができたこと。
- ・富谷市がもっと好きになって、自分でもこんな町にしたいという願望が生まれたこと。
- ・新たな視点から社会を捉えることができたこと。〈他多数〉

Q5.その他、課題研究全般(収穫祭予選・本選を含む)について、感想を自由に記入してください。(一部抜粋)

- ・課題解決の方法や考え方、発表の仕方など参考になる班が沢山ありました。始める前は大変だなと思っていた収穫祭でしたが、とても熱中してやりきる事ができたので、良い経験となりました。
- ・チームの仲間、先生たちと協力して納得の行くプレゼンができた。プレゼンの仕方、課題研究で得た情報や力を糧に、社会に出て役立てていきたい。
- ・このまちに住む自分達がその地域に貢献できるという機会があまり無かったので、今回の課題研究を行えて良かった。4月の本戦には出場できなかったが、この課題研究で得たことを大学進学や今後の人生に活かしたい。〈他多数〉